



学校教育目標

- 自ら学び 考える子
- 思いやり 助け合う子
- 体をきたえ 元気な子
- 目標をもち やりぬく子

ふたば

第4号 R7.6.27 石狩市立双葉小学校
学校HP <https://www.fureai-cloud.jp/futaba/>

「人生活発の気力は物に接せざれば生じ難し。」

校長 東峰 宏紀

山下達郎さんの「I LOVE YOU」という曲をご存じですか。1984年に某飲料メーカーのCMソングとしてリリースされた曲で、ちょっと古い曲なので保護者の皆さんは「？」ってなるかもしれませんね。私は、特段に山下達郎さんのファンというわけではないのですが、この曲を聴くと、高校2年生の夏休みにニセコ町に行った時の記憶が鮮やかによみがえってくるんです。羊蹄山を望むニセコ町の風景。いい具合に白い雲がちりばめられた夏の青空。全開の車窓から吹き込んでくる風と香りが道中のカーステレオから流れていたこの曲と強く結びついていて、一瞬にしてそれらがフィードバックしてきます。



こんな風に、特定の記憶や経験と五感で感じる音や香り、触感や味覚などが強く結びついているという感覚は、皆さんも少なからずお持ちなのではないでしょうか。塩素臭を感じるとプールを連想するとか特定のぬいぐるみや毛布などの手触りが幼かった日の記憶をよみがえらせるなど、挙げていくときりがないのでとも思います。

今月7日に多くの保護者や地域の皆様にご観戦いただく中、運動会も無事終了し、今月中旬から夏休み前に向け、学校では社会見学や修学旅行、宿泊学習など校外で学ぶ機会が多くなる時期を迎えました。こうした校外での学習は、生活科や社会科、理科、総合的な学習の時間などの学習をより深めることをねらいとしています。実地での「直接体験」による学習が、豊かな人間性、自ら学び自ら考える力などの生きる力の基盤を培うためにより効果的であるというのが、校外学習を行う根拠なのですが、それはなぜなのでしょう？その答えのうちのひとつに、前述の「五感と記憶、経験との関係」を挙げることができます。

とある脳科学者によると、私たちの脳には、1000億個を超える神経細胞が存在しており、これらの細胞は、役割別に集団を形成しているようなのです。その役割とは、「思考」「感情」「伝達」「理解」「運動」「聴覚」「視覚」「記憶」で、これらの集団が相互に連携し働くことで、人間は活動をしているんだそうです。既述の私の体験のようにある曲を聴くとその頃の思い出が脳裏によみがえるといったこともその一例で、「聴覚」から得られた曲と一緒に「視覚」や「感情」から得られたある知識や経験が脳に蓄積されたという意味において、体験学習が知識を脳に定着させやすいことを示している実例と言えるそうです。そして、こうした脳内の連携を強化していくことこそが「脳の強化」に繋がるのだという論をこの脳科学者は主張しています。

この論の真偽のほどは、私には判断しかねますが、学校教育において、校外学習での体験学習をなぜ重視しているのかについては、この「五感と記憶、経験の関係」をもとにした説明が私には、一番しっくりくる感じがします。水族館で実際に魚に触れてみた体験。工場や処理場などの施設で耳にした音や熱気、臭い。各種博物館などで、実物を目にした手にしたりして得た感覚。自然体験の中で五感をフル動員して得られた経験。これらは、やはり教室の中では得ることのできない、貴重な記憶や経験、感情をもたらしてくれます。そしてこれらの体験がもたらした学びと教室での学びを結び付けていくことで、子どもたちの学習は更に深まり、ひいては、学びへの意欲の高まりや豊かな人間性、新たな価値観の形成へと学びを昇華することに繋がっていくのです。

「人生活発の気力は物に接せざれば生じ難し。」とは、実体験こそが生きる源という意の福沢諭吉の言です。今後の校外学習の中でも、子どもたちが貴重な体験を重ね、学びを深化していくことができるよう、ねらいをしっかりと持ち、取組を進めてまいりたいと思います。

